



川崎大師ロータリークラブ 週報

例会日:毎週水曜日 PM12:30~

例会場:大本山川崎大師信徒会館

事務局:〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F

Tel.044-277-7569 Fax.044-288-8550

URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/>

E-mail:daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp

会長 横山 俊夫
副会長 岩井 茂次
幹事 小林 清久
SAA 矢野 清久
清水 宏明

第1941回 (本年度 第29回) 例会 平成25年2月6日 一晴れ一

- 司会 清水 宏明 SAA
- 点鐘 横山 俊夫 会長
- 斉唱 「君が代」 斉唱「奉仕の理想」
ソングリーダー 須山 文夫 委員長

本日の卓話者のご紹介 横山 俊夫 会長
ロータリーの友 地区代表 (横浜港北RC)
桑原 薫 様

来訪ロータリアンのご紹介 飯塚 元明 親睦委員長
横浜東RC 地区RA委員長 柘崎 一之様

会員入会祝 飯塚 元明 親睦委員長

布川二三夫 会員	昭和48年2月24日
久保 榮弘 会員	昭和48年2月24日
船山 昭三 会員	昭和49年2月27日
島岡 榮基 会員	昭和54年2月7日
炭谷 博功 会員	平成8年2月14日
秦 琢二 会員	平成18年2月22日
沼田 直輝 会員	平成23年2月9日

会員誕生祝

寺尾 巖 会員
嶋崎 嘉夫 会員
竹田 正和 会員
伊藤 佳子 会員



会長報告 横山 俊夫 会長

- ・地区の広報ポスターが掲示されます。
(期間:2月23日~25日) JR車内
- ・地区より
2013年度米山奨学生 世話クラブの依頼
中国モンゴル出身(ハク・ギョッコウさん) 女性
- ・12月末までロータリー財団寄付者 領収書
(メールBOX)

幹事報告 矢野 清久 幹事

- ・例会終了後 理事会・40周年全体打合せ
- ・ガバナー月信 (メールBOX)
- ・次週はIM
登録:13:00登録 13:10頃より受付近くにて例会
場所:慶應義塾日吉協生館 藤原記念ホール

出席報告 石渡 勝朗 出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
1941回	55	46	29	17	63.04%
1939回	55	46	26	20	56.52%
前々回の修正	メイクアップ 5名		修正出席率		67.39%

メイクアップ
林 会員、増田 会員、岩井 会員、牛山 会員、沼田 会員

スマイルレポート (ニコニコボックス)
岩井 茂次 副会長

横浜港北RC 桑原 薫 様
本日は、宜しくお願い致します。皆様に会えることを楽しみにしていました。

横浜東RC (地区RA委員長) 柘崎 一之様
初めて貴クラブ例会に出席致します。どうぞ宜しくお願い致します。日頃の提唱クラブとして川崎大師RACへのご尽力に敬意を表し、地区RA委員長として感謝申し上げます。現在、川崎大師RACは人数は少ないながらも大いに健闘しており、次年度は地区幹事も出ます。どうぞ皆様RACの例会にぜひ御参加下さい。そして今後ともより一層のRACへの御支援を宜しくお願い申し上げます。

野沢隆幸会員

孫二人の中学入試受験が無事終わりました。今、ほっとしている時です。

鈴木 幹久会員

桑原さん久しぶりです。本日の卓話楽しみにしております。

中村 眞治会員

桑原さん卓話宜しく申し上げます。柘崎さんようこそいらっしやいました。

伊藤 佳子会員

今日誕生日でした。いよいよ古希を迎えてしまいました。

竹田 正和会員

①桑原様ようこそ大師へ！！卓話宜しく申し上げます。
②誕生日を祝っていただき有難うございます。2/3で満60歳になりました。

竹中 裕彦会員

3、4日前が約20度だったのに今日はこの天気ですね。よけいに寒く感じます。皆様ご自愛下さい。

牛山 裕子会員

節分会ご参加の皆様にはお世話になりました。前日に孫が中学校合格しましたのでお大師様へのお礼で、豆撒きを私と交代しました。7歳と12歳の二人がクラブの方々に面倒を見て戴いて、素晴らしい経験をしました。感謝！！

鈴木 昇二会員

桑原薫様、悪天候の中、お越し頂きまして有難うございます。今日は卓話、楽しみにしています。宜しくお願い致します。

飯塚 元明会員

桑原様、卓話楽しみにしています。

横山 俊夫会長

桑原さん本日は卓話宜しく申し上げます。柘崎さんようこそお出かけ下さいました。

矢野 清久会員

桑原さん本日の卓話宜しくお願い致します。

本日のニコニコのテーマ

桑原 薫様 卓話 宜しくお願い致します。

秦 琢二会員、牛山 裕子会員、船山 昭三会員
谷澤 幹男会員、嶋崎 嘉夫会員、須山 文夫会員
岩井 茂次会員、小林 勇次会員

合計 43,000円

委員会報告**40周年実行委員会 水口 衛 副実行委員長**

40周年事業で大師地区の4小学校へ防災鍋の寄贈いたします。2月26日（火）9時半より4校の小学校を順番に回ります。

卓話者のご紹介

鈴木昇二プログラム委員長

横浜港北RC 桑原 薫様

経歴

早稲田政経学部卒業
平成10年横浜港北RC入会
2008～2009年 地区副幹事
2009～2010年 地区米山奨学金増進委員長
2011～2012年 横浜港北RC（50周年）会長
2012～2013年 ロータリーの友 地区代表

今日は「奉仕の理想とロータリーの綱領について」という事で、これだけ言葉を聞くと大変難しそうな感じも受けますけれど、桑原さんはなかなかお話が上手な方なので、今日はじっくり聞いて頂きたいと思います。じっくり聞かないと微妙な所がありますので、集中して聴きたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

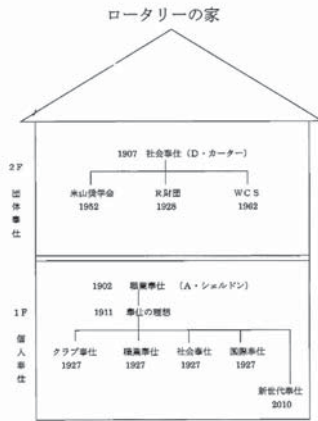
卓話

横浜港北RC 桑原 薫様

ロータリーの友の1月号に新しい綱領が発表されました。今までの綱領が正直に言って腑に落ちないという事で2690地区のPGを始めとして、全国からロータリーに詳しいPGが集まって書き換えをしました。それがまた大変申し上げにくいのですが、少し違和感があって、私の方で訂正版を作ってみました。どうしてそういう間違いが起きるのか。理由は簡単で正しい訳を作るためには、正しい理解が必要なわけです。1905年のロータリーが出来た年にアインシュタインが相対性理論を発表しました。これが大変なことでたくさんの翻訳家が集まったのですが、正しい訳が出来ない。なぜかというところを理解しないと訳せないわけです。相対性理論を理解するためにはガリレオの相対性原理とかニュートン力学の問題点とか光速不変の法則とかがわからないとわからないわけです。同じようにロータリーの奉仕理念も英語が出来ればわかるという事ではなく、この理念を理解しないと正しく訳せない。しかし正しく訳すためには、正しい理解が必要となる。しかし今まで誤解したことを覚えているから正しい訳が出来ない。正しい訳が出来ないから正しい訳が作れない。悪循環に陥っている訳です。どこがどのように誤解しているかお話をしたいと思います。

ロータリーの奉仕理念がややこしいのは、ロータリーを家だとしたら2階建になっています。よく勘違いする方もいるのですが、1905年にポール・ハリス先生はロータリーを親睦団体として創ったのです。だけれど会員同士の相互扶助という機能がありました。D・カーターさんという人に翌年の4月に「入会して」と進めるのですがカーターさんの言う事には、「社会奉仕をしていないような利己的なクラブには未来がないから入らない」と断られました。そこでポール・ハリス先生は奉仕理念を創ろうと1908年に入会したシェルドン先生にそのことを一任しました。シェルドン先生は自分が1902年に創っていた職業奉仕の理念を持ってロータリーの奉仕の理念としたのです。しかしシェルドン先生の言う職業奉仕はoccupationなのです。それが1927年vocationになるわけです。その関係がよくわからないので混乱している訳です。

なぜ分からないかというところをシェルドンの言ったoccupationの理論というのは、日本に正しく伝わったのは2003年です。だからわからなくて当たり前なのです。1902年の職業奉仕と1927年の職業奉仕はどう違うのか。まずここで混乱するわけです。たとえば悪いのですが1902年の職業奉仕をあんみつとしますとそこからあんこ



を除いたのがみつめでありそれが奉仕の理想なのです。さらにあんこを又盛り付けたのが1927年のあんみつです。そうすると内容と味は全く同じなのです。だけれども区別をするために…できた年が違うので…occupationに対してvocationと名付けた。そこで天職論とかを言い出した。どんどんわけのわからない話になっていったというのが真相です。

ところで皆さんがいつも歌に歌っている「奉仕の理想」とは何か。簡単に言いますとそれは職業奉仕という概念から生まれたものです。PETSで職業奉仕とは職業を通して社会に貢献すると教えています。これは紛らわしい言い方です。職業奉仕とは、単に職業関係者にサービスをするというだけの事です。お客さんと従業員にサービスをするという事です。つまりお客さんにいいものをより安く提供し、従業員にできるだけの高給を払う。そうすると事業主としては利益が減ります。利益は減りますけれど従業員はやる気満々になって、お客さんはリピーターになるから結果的には事業が発展する。そのような形で事業主も報われるという事なのです。つまりサービスをする側とサービスをされる側がウイン・ウインの関係になる、これがシェルドンの言っている職業奉仕理念です。この考え方をそのままにして置いて「職業関係者」という条件を除いたものが奉仕の理想なのです。でも万人に奉仕をすることは無理です。だから1927年に4つに絞りましたよという事になったのです。クラブの皆さんに奉仕をする、職業関係者に奉仕をする、社会の人々に奉仕をする、国際社会の人々に奉仕をする。と4つに的を絞りました。ではなぜ家庭奉仕はないのでしょうか。それは当たり前のことだからです。

D・カーターさんが「そんなエゴイスティックなクラブには入りたくない」と言ったのは、実はこれは正しくない、これはエゴイスティックとか利他的とかの問題ではありません。一番最初の会員同士の相互扶助というものにしても他者に奉仕をするには間違いありません。カーターさんの言う社会奉仕というのも他者に奉仕をする。シェルドン先生の言っている職業奉仕も他者に奉仕をする。みな同じなのです。違うのは何か、それは他者をどのようにとらえているのかという事です。他者というのが仲間なのか仲間以外なのか、そもそも仲間とはどのようなものなのか、こういう問題なのです。それを利他か利己かとするすり替えてしまったのでこのロータリーの奉仕理念が分かりづらくなってしまった。よくお釈迦様は人助けは近くから遠くへと行っていきます。イエス様も子どもの口から奪ったパンを犬に与えてはいけなと言っています。簡単に言えば地球の裏側の難民を支援していたら隣人が餓死していたという事があってはいけなという事です。奉仕の対象をどのようにするか。これによって奉仕の理念は大きく変わります。そもそも理念はどうして大切なのか。一般の奉仕団体の方は必ずこう言います。奉仕に理念は必要ない、行動あるのみだ。行動が大事だという方はいっぱいいます。1955年にある国で作物

を食い荒らす雀を撲滅しようという雀撲滅運動というのがありました。1年間に11億匹も殺しました。4年間にわたって殺した結果どうなったか、害虫が増え過ぎて作物が取れなくなり3800万人が餓死しました。それは国を挙げての大きなボランティア活動だったのです。奉仕活動はやればいいというものではない。愚かな奉仕をしないという事も大事です。ロータリーはただ奉仕をやるという事ではなく、愚かな奉仕をしないという事より良い奉仕をしようという事を目指しています。悪い奉仕、愚かな奉仕をしないために大事なことは見識を深めることです。より良い奉仕をするためには人間性を深める。先ほど言った従業員に30万払えばいい給料を50万払うとか、或いはお客さんに1万円で売れる物を5千円で売るとかいう事は人徳がないとなかなかできません。それが倫理基準を高めるという事なのです。道徳観念を高める。つまりロータリーの例会を含めロータリーの集まりはすべて人間性を深めたり、見識を深めたりするというような目的があります。ロータリーの奉仕理念がなぜ大事かというお話をしたのですが、ロータリーの奉仕理念は2階建てになっている訳です。2階建てになっているからよく分からない。1階部分は個人奉仕なのです。2階部分が団体奉仕になります。団体奉仕と個人奉仕はどう違うのか。みなさんご存知だと思いますが一番の違いは、みんな学んだことをそれぞれで人の役に立てようというのがロータリーの個人奉仕です。つまり人の役に立つという事です。1階部分の奉仕というのは、日本語の奉仕ではなく役に立つという意味です。もともと奉仕というのはサンスクリット語のセーフアが西に行ってサービスになり東の果てで世話になったという事です。しいていえば1階部分の奉仕というのは役に立つという意味で、2階部分の奉仕は日本語の奉仕に似ています。日本語の奉仕は尽くす・仕える・安く売るの3つの意味があります。1階部分はどうしても言うのなら「安く売る」が一番近いです。2階部分は「尽くす」という意味です。それが先ほど言ったように利己主義や利他主義にかかわってくるわけです。一般の奉仕団体は利己主義は悪いことだ、だから利他主義はよいことだ。だから利他主義を行動の基本においている訳です。しかし、よくよく考えてみると利己主義も利他主義も本質は同じです。何が同じかというと片方を優先することによって片方を蔑(ないがしろ)にしているのです。利他主義というのは、自分の利益よりも他者の利益を優先するという事です。利己主義はその反対ですね。どちらも片方を優先するために、もう片方を後回しにしている。つまり片方を重んじてもう片方を軽んじる結果になってしまいます。ロータリーの奉仕の理想とは何かということ、第一モットーにも第二モットーにも表されています。奉仕の理想とは利己主義でも利他主義でもなくロータリー主義であります。ロータリー主義とは中庸で不変的な奉仕なのです。利己主義でも利他主義でもなく、つまり利己主義の良い所と利他主義の良い所だけを集める、自他ともに平等に尊重する、優先順位をつけない主義です。お釈迦様もイエス様も自分を愛するように他者を愛せと言っていますが、自分よりも他者とか他者よりも自分とは言っていない。平等に愛せと言っているのです。どうしてかという利他主義というのはよく考えてみると大変なリスクがあります。これを徹底すれば努力したものが報われず、努力しない者が恩恵を被るという結果になる場合もあります。どちらかというと2階部分の一般の奉仕理念でありその奉仕は人の為につくすというイメージなのです。どちらといえば人の為に自分を殺すというイメージです。1階の方は人の為に自分を活かすというイメージになります。つまり誰かが誰かの犠牲になるという事ではなくて、人を人が活かすという事なのです。すなわち、人の為に自分を活かし、人の為になんか活かすという事です。たとえば障害者の人達に金銭的な奉仕をする団体はたくさ

んありますが、ロータリーはただそれだけではなく、障害者の方たちに、人の役に立つ喜び、社会から必要とされる幸せをその手に掴めるように尽力するという事なのです。

ロータリーの奉仕理念は手続要覧のどこにも書いてないという人がいます。それは当たり前で、2つのモットー・2つの原則・二本の柱に表されているのです。でもその中核となっているものは、奉仕の理想・職業奉仕・個人奉仕の3つです。この3つはどのような関係にあるのか。それは職業奉仕から生まれた奉仕の理想を個人奉仕というやり方で実行に移す。それがロータリーの奉仕の理念なのです。

ideal of serviceというのは奉仕の概念・奉仕の理念と訳すべき時と奉仕の理想と訳すべき時があるのです。もう一つの混乱は、二つの社会奉仕の事です。奉仕の理想を社会において実践することあるいは社会に対して実践する、しかも個人奉仕というやり方で実践するそれがロータリーの社会奉仕です。1970年にD・カーターさんの言っている社会奉仕というボランティアソーシャルサービスです。ロータリーの言っている1927年の社会奉仕はコミュニティサービスです。どう違うのかといいますと、それはsocietyというのは1875年までは仲間と訳していました。しかし福地源一郎がこれは仲間ではなくて仲間の集まりだという事で社会と訳した。綱領の第2項にあるsocietyは、職業関係者のことを言っている。「職業関係者に」という事を「社会に」と訳したので混乱したわけです。強い社会と訳するのであればこういうふう考えて下さい。社会に分散しているお客さんとか社員、たとえば多国籍企業であれば従業員やお客さんは世界に分散しています。でもマックがどんなに素晴らしいサービスをしてそのサービスを受けるのは社会でもなく世界でもない。お客さんだけです。それを社会に分散している客というのと社会というのを混同して訳されているので意味が解らないという事です。

奉仕の理想について1922年にロータリーで大論争がありました。ロータリーが壊れるくらいの大論争です。これは親睦派對奉仕派の闘い、職業奉仕派對社会奉仕派の闘い、理論派對実践派などいろんなレッテルを貼られています。その対立の本質は何か。それは利他主義が本当に善なのかどうかという問題だったのです。利他主義の中核にあるものは自己犠牲なのです。自己犠牲が本当に正しいのかどうかという議論だったのです。人の為に自己犠牲をする人は美しいけれども、自己犠牲を強いる人、せまる人は美しくないのです。実際に自己犠牲を叫ぶ人によってたくさんの方が犠牲になりました。インカの人々、インディアンの人々、アフリカの人々、魔女と呼ばれた人々など例をあげればきりがありません。自己犠牲という皆さんキリスト教を思い浮かべると思いますがそうでもない。ロータリーのマークというのはちょっと前までは、スポークが8本だったのです。八正道の8でダルマホイールと言って2500年前にできた仏教のマークです。寛容と平等のマークです。イエス様が作ったのはこのマークから2本少ないもので、これはキリストグラムというマークです。表されているのは寛容と平等です。もう2本取ると十字架になります。十字架は自己犠牲と贖罪のマークです。どんな組織でも巨大化してマンネリ化すると必ず組織を守ること自体が目的になってしまうのです。昔のユダヤ教やバラモン教もそうでした。国もそうです。組織を守るために戒律や階級が増えるので、イエス様もお釈迦様もそれはまずいという事で、戒律が増え過ぎていることに対して寛容を訴え、階級が増え過ぎていることに対して平等を訴えたのです。しかし寛容と平等の訴えは次の指導者たちにかき消されてしまう。お前たちは俺の為に、犠牲を払えという方向に転換されていくわけです。ローマの皇帝の権威を否定するイエス様の教えが、ローマ皇帝の権威を強化するための論

理にすり替えられていってしまったのです。

ロータリーの綱領はすごくよくできていて、素晴らしい一言です。だけど訳がちょっと残念だなと感じます。その一番大きな理由は誤解です。誤解というのは先ほど言ったように正しい理論が伝わるのが遅かったという事によっておきたことです。松下幸之助がいかに立派な方であっても知らなければわかるはずがないのです。しかしながら、それらの優秀な人たちが作り上げたものが、2次的な教科書となって広まってしまった為に、誤解が誤解を呼んで非常に本質がわからなくなってきたのです。奉仕の理想が生まれたのは1911年です。シェルドンの発表した「自分の仲間に最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」というのが職業奉仕理念を表したモットーです。1911年にそこから「自分の仲間に」というのを外しました。外したことによって奉仕の理想が誕生したのです。1911年に生まれ1912年に明文化され、大論争の後の23年にできた決議23-34もそうなんです。自分の為にといい気持ちと人の為にといい気持ちがどちらも矛盾せずに両立する概念のことを言っている。それが1937年・54年にもう一回繰り返してむしかえされて明文化されていきます。それはあくまでも1937年のものも54年のものもすべてソートフルネスとヘルプフルネス トゥ アザーズ つまり他人に対する配慮と有用性。有用性とは何かという人の役に立つという事です。日本では「人の為につくす」と訳されているのです。それが誤解を生んでいるのです。ロータリーの奉仕理念というのは人を助ける・人の役に立つ、そのために自分を活かし・人を活かす。これらのことは日本では当たり前のことです。日本人はみんな謙虚でお互いに人は活かし活かされて生きていっていると思っているので、自分の為にしたことが人の為になれば、人の為にしたことが人の為になる事もあるという事はみんな分かっている。日本人ほど肌でロータリーをわかっている人達はいないのでないかなと思うくらいです。そういう意味で日本人が大好きです。自画自賛です。

個人奉仕と団体奉仕についてお話しします。個人奉仕は団体奉仕の欠点を補うものであります。団体奉仕はどうしても、貧しい人に奉仕しようとしても、貧しい人と怠け者の区別もつかないし、弱い人に奉仕しようとしても、弱い人と弱いふりをしているずるい人の区別が難しい。間違った人に奉仕をしてしまうリスクがある。そういう事を防ごうという意味です。一番大きいのは団体から団体に金品は簡単に渡るけれども、愛と敬意は、一人から一人ひとりにしか伝わらないのです。だから個人奉仕というのを大事にしているのです。その個人奉仕から生まれたものがロータリーの2本の柱なのです。すなわちロータリーの親睦と奉仕の事です。親睦と奉仕のことについては、去年のロータリーの友6月号に「ロータリーの親睦とは何か」という投稿の募集がありまして、たくさんの方が投稿されましたがこの中で一番短い文章を読んでもみたいと思います。私が投稿した文です。

「ロータリーに於いて親睦とは仲間同士が情報の交換と共有によって互いの成長を加速し合う事です。そして成長した自分を人の為に役立てることがロータリーの奉仕です。この奉仕と親睦のローテーションがロータリーライフです。ロータリーでは親睦も奉仕も手段であり目的は人を育てることです。全人類を立派な人に育てることによって世界平和を実現しようというのがロータリー運動です。この運動を夢のまた夢だと言って笑う事は誰にでもできますが、この夢を少しでも現実に近づけるために今できることからやっている人々のことをロータリアンといいます。」

私はロータリーって素晴らしいと思う事が最近よくあります。入ったばかりの時はロータリーとほかの団体の違いとかもよく分からなかった。過去を調べていくと哲学に踏み込んでいくようです。ロータリーはキリスト

教を土台にしていると教わっている人もいると思いますがそれは違います。ロータリーは、政治や宗教やイデオロギーなどをすべて超えたものを目指しているのです。このことは「入りて学び入りて奉仕せよ」と唱われています。すなわち、物事の本質を知り、知った自分を人のために役立てる。そのために自分を成長させる、つまり奉仕だけが目的の団体ではないという事をご理解いただきたいと思えます。

「ロータリーの綱領」の和訳について

- A. objectは、この場合目的を達成するための目標
 B. encourageとfosterは同意語のくり返して『推し広める』-「広く行きわたらせる」の意味
 C. 第1項のasは「～として」ではなく「～するにつれて」
 D. 第1項のasの後にはthe development ofが省略されている
 E. idealは単数のときideal of～で「～の理想像・手本」
 F. basisはこの場合、基礎ではなく基盤
 G. 第2項は(I・II)+(III as IV)ではなく(I・II・III as IV)
 H. recognitionはこの場合、認識ではなく「評価・お礼」
 I. worthinessはこの場合「尊重されるべき」ではなく「ふさわしさ」
 J. to serveはⅢにかかるのではなくan opportunityにかかる
 K. societyはこの場合「社会」ではなく原義のとおり「仲間の集まり」
 L. eachは「すべて」ではなく「めいめいの・それぞれの」

I. encourageとfosterの目的語は「奉仕の理想」(注1)と4つの項目です。
 奉仕の理想を理解するには「利己主義と利他主義の相違点と共通点」(注2)及び「競争と共生の正しい関係」(注3)そして「相利共生と寄生の違い」(注4)について理解する必要があります。

II. 第2項目は職業奉仕についての記述ですが、これを正しく和訳するには、「societyとcommunityの違い」(注5)及び「職業奉仕と社会奉仕の共通点と相違点」(注6)そして「1902年のoccupational serviceと1927年のvocational serviceの相違点と共通点」(注7)について理解することが必要です。

III. 第3項は奉仕の理想と個人奉仕についての記述です。「奉仕の理想」の対象を具体的に示したものが第3項の「生活への適用」です。個人奉仕とは「団体奉仕の問題点」(注8)を補正するものです。

ロータリーの目標(口語モード)

ロータリーの目標は、立派な事業を築く為の「理想的な奉仕の理念」そして特に下記の各項を広く行きわたらせること

1. 奉仕するほど知り合いがふえること
2. 職業奉仕をするにつれて、職業倫理が高まり、仕事の

評価がそれ相応のものとなり、ロータリアン各自の職業がより立派なものになること

3. ロータリアンはそれぞれで、プライベートでも、職場でも、社会でも、「理想的な奉仕の理念」を行動に移すこと
4. 「理想的な奉仕の理念」をめざす職業人の仲間が、地球規模で理解しあい、仲良くして、世界平和を築くこと

ロータリーの目標(英文直訳モード)

ロータリーの目標は、立派な事業の基盤としての奉仕の理想像および下記の各項をとくに推し広めること

1. 奉仕の機会を増やすにつれて、知り合いが増えていくこと
2. 職業奉仕にともなう、職業における高い道徳的水準、すべての立派な職業にふさわしい評価、各ロータリアンの職業の高品位化
3. それぞれのロータリアンの個人生活、職業生活、社会生活における「奉仕の理想像」の適用
4. 「奉仕の理想像」で一つになった職業人の世界的団体をとおしての、国家間の理解や親善や平和の推進

卓話御礼

横山 俊夫会長

桑原さんどうも有難うございました。お時間がちょっと短いかなと思いましたが。桑原さんのお話はシリーズものでやらないといけないのかなと思っていますけれど、多分お話をされるにあたっていろいろロータリーのことについて、紐解きながらご自身でいろいろ勉強されたと思います。私も今初めて聞いたようなことがいろいろ出ておりました。そんなに歴史の中で、綱領というのは人の解釈でいろいろ変わるのかなという事も含めて、これから私共も機会があればロータリーそのもののことについて勉強する機会を持ちたいと思っています。そういう機会を与えて頂きまして桑原さんには大変感謝申し上げます。本当に有難うございました。



日時：平成25年2月20日(水)は通常例会です。

第6回クラブ協議会

中間決算報告

クラブ
委員会

秦 琢二／竹内 祥晴／小泉 知寛